

# 花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年12月25日 NO.74

オー君 「♪もういくつねるとお正月 お正月にはタコあげて

コマをまわして遊びましょう 早く来い来いお正月♪

・・・ヤッター！あしたから冬休みだ。」

モンタ博士「冬休みには、大みそか、お正月、お年玉、お節料理（おせちりょうり）と、  
いろいろうれしいこと・楽しいことがいっぱいよかったね。」

花ちゃん 「でも、1年の終りと始めをむかえる大切（たいせつ）な時よ。今年のふりか  
えりと新しい年の目標（もくひょう）をしっかりと決（き）めましょうね。  
それから、冬休みは、おうちの大そうじやお手伝いもがんばりましょう。」

オー君 「おいら、お手伝い大すきだ。門松（かどまつ）つけるのも楽しいよね。」

花ちゃん 「そうね。門松ね・・・。でも、どうしてお正月には松とかおうちにかざるの。」

モンタ博士「その前に、マツのような木を何といったか覚（おぼ）えているかい。」

オー君 「葉っぱが針（はり）のようだから、針葉樹（しんようじゅ）と言うんだ。」

花ちゃん 「針葉樹でもあるけど、一年中葉っぱが緑色で、秋にかれたりしないし、いつ  
も葉っぱをつけていて、常緑樹（じょうりょくじゅ）ともいうわね。」

モンタ博士「その通りだね。それで松（マツ）は永遠（えいえん）の生命という事で、日  
本では、むかしから長生きやおめでたいものを表すものとされているんだ。」

花ちゃん 「松と竹と梅をあわせて松竹梅  
（しょうちくばい）といいますね。」

モンタ博士「よく知っているね。松竹梅もお  
めでたい時や、よろこびごとなど  
で使うのさ。」

オー君 「ほかに、お正月らしい、おめで  
たい植物ってあるのかな。」

モンタ博士「ナンテンなんかもお正月にかざ



**ナンテン**

ったりするね。難（なんーさいなんなど、あまりよくないこと）を転（てん）じて福（ふく）とするとするので、とても縁起（えんぎ）がいいものなんだ。」

花ちゃん 「フクジュソウなんかもおめでたい植物ですね。」

モンタ博士「そうだね。漢字（かんじ）で福寿草（ふくじゅそう）と書いて、幸福な寿（ことぶき）な草という意味（いみ）だね。」

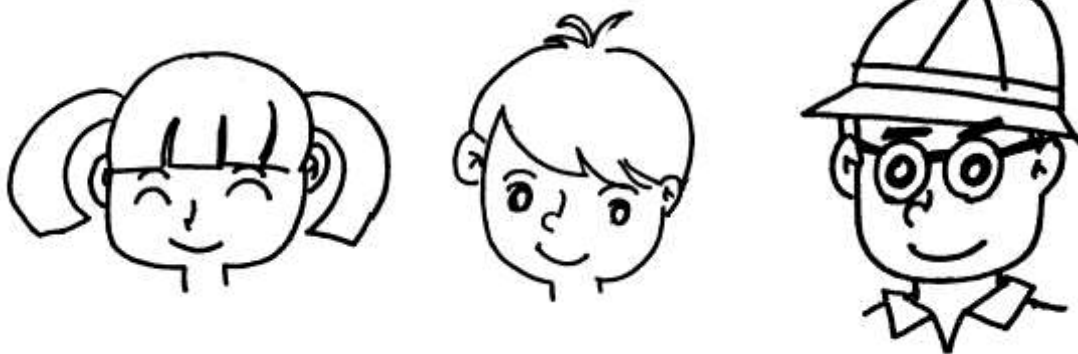
オー君 「ふーん。そうなんだ。」

モンタ博士「まだまだあるよ。センリョウやマンリョウなどの赤い実もきれいでいいよね。それから、鏡（かがみ）もちには、ウラジロやユズリハの葉をしいてかざったりするんだよ。」

花ちゃん 「『お正月と植物』ということを考えてみることも楽しいものですね。」

モンタ博士「そうだね。いろいろ考えたり、観察したり、てくてくしたり……。来年もみんなでわくわくドキドキしましょう。今年は、大きな事故（じこ）やけがもなく本当によかったね。さあ、冬休みにはお手伝いをたくさんして、食べすぎには気をつけて、1月8日の始業式には、みんなで楽しく集まろうね。」

花ちゃん・オー君・モンタ博士 「来年もみなさんにとって、素晴らしい年でありますように。よいお年を！」



### お節料理とは・・・

「盆と正月が一緒に来たようだ」というたとえがあるように、昔の日本人にとってお盆とお正月は大ぴらに休み楽しむ事ができる時だった。今でこそ土・日曜日があり週に1・2度は休むのは常識であるが、昔の人は意味もなく休むことは怠け者のように思われる風潮があった。従って節句とか神仏のお祭りとか理由をつけて休んでいたのである。特に正月は年の始めのめでたい時としてお店も休み主婦も休むというので、年末のうちに買い物をしてご馳走を作って準備をした。それがお節料理の始まりである。最近ではお正月でも開いている店はいくらでもあるし、調理の手間のかからない食品や家庭電気機器も普及しているので、それほど年末から準備をしておく必要もなくなったようだ。しかし、それでも年末のうちにいわゆる買出しをしてお節料理を準備する風習はまだ残っている。時代とともに食文化も変化してきているが、それでもお正月のお節料理となると、やはり昔風のものになる傾向があるようだ。さて、モンタ博士も暮れには窓ふきや網戸の修理、それから、奥様のお節料理作りのお手伝いでもすることにしよう。